

青柳あつし

市政報告 Vol.006

あけましておめでとうございます

皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
旧年中は大変お世話になりました。

さて、昨年は三世代がより安心して暮らせる街をテーマに、教育と産業の拡充を中心に活動をさせていただきました。また、金津小学校のPTA会長を拝命したことで、子ども達の笑顔を支えているのは、地域のみなさまの力が大きいことを強く実感いたしました。

新年は、これまでのテーマである「三世代が安心して暮らせるあわら市」を達成するためにも、これまで以上に皆様とお話させていただき、今起こっている課題を自らの足で探していきたいと思っております。多くの方のお話を伺うことで解決策を見つけ、さらなるあわら市の発展に繋げる所存です。

引き続き皆様の温かいご支援ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

地域通貨に関する先端講習会

市役所内で、地域通貨（特定の地域のみで利用できる商品券やポイントなど）に関する講習会を行いました。

地域通貨を流通させることによるメリットは、住民の皆様への生活支援がより早く、より効果的に行えることが挙げられます。その一方で、使える人と使えない人の差をどう埋めるかがポイントになります。マイナンバーカードを活用するなど、全ての皆様が等しく恩恵を受けられるような制度設計を行わなければなりません。

また、地域通貨は導入することが目的ではなく、いかに流通させるかが重要であり、結果として何がもたらされるのかを考えなければなりません。本格的な議論が始まる前に、十分な準備を行いたいと思っております。



12月議会 一般質問の裏側

12月定例会が11月28日から12月20日までの会期で開催されました。

一般質問の裏側ということで、想い・考え方・反省点・今後をみなさまにお伝えします。なお、全文に関しては私のホームページに原文どおり掲載しています。



つながるあわら 産業と観光



新幹線開業を目前に控え、現在は計画に沿った施策を確実に実行することが大切な一方で、開業後の計画についても立案見直しを行っていかねばなりません。そこで今回の質問では、あわら市の産業構造の再確認と、観光を切り口にしたあわら市の開発目標を明らかにすることを目的としました。

あわら市は、図の数字から読み取れる通り圧倒的な製造業の街です。その背景には企業の頑張りと過去の施策があり、工場が多くあることによって働き場所が確保されて流入人口が増え、街が潤っています。この街の強い部分は、さらに伸ばしていく必要があります。製造業をさらに伸ばすには様々な手法が考えられますが、まずは調査のう

えで情報を精査し、企業が伸びるためには行政がどのようなことを支援すべきかを企業と共に考えていくことが大切です。また、今後は労働者不足が深刻になることが予想されますので、それらの対策も必要でしょう。



全体売上高 214,151 百万円

【出典】総務省・経済産業省「経済センサスー活同調査」

伸びる産業 観光産業



2022年に発表された世界経済フォーラムによる旅行・観光開発力ランキングで、日本がトップに選ばれました。観光庁の試算によると、旅行産業は日本全体で30兆円を超える規模に成長することが予想されています。これは、日本の社会保険料歳出総額に匹敵する規模です。

しかし、これはあくまで日本全体での話です。選ばれる場所には選ばれる理由が

あります。あわら市は、選ばれるその理由を作っていかなければなりません。外国人が日本を旅行先に選ぶ理由は、主に自然・文化・歴史です。梅雨時の日照時間が他の地域に比べて長いこと、おいしいフルーツがとれること、大地をえぐるようにできた北潟湖など、あわら市には豊かな自然と自然の産物があります。強みを生かして、将来につなげる。相対的な競争力を高めて、未来につなげる必要があります。

導入が目的ではない



政策や補助金は導入することが目的ではなく、将来にどうつなげるのが最も大切です。その中で問題点をひとつひとつ

つくり出し、諦めていることを現実化することであわら市の発展に繋げなければいけません。

行政視察報告

珠洲市

観光行政を中心に、道の駅や体験型ツアーについてお話を伺いました。

道の駅「すずなり」は小規模な施設ではありますが、客単価 1,700 円以上という全国の道の駅でもトップレベルの売上を誇ります。発見や再確認できる部分も多く、この学びを吉崎に誕生する新しい道の駅に効果的に活かしていきます。

また、珠洲市には奥能登地域全体で取り組んでいる施策が多く、DMO や 2 次交通など広域連携に優れた部分があります。引退後の競走馬に第二の人生を与えるレスポンシブル・ツーリズムなど、アイデアと人材を活かした観光誘致を行っていました。



魚津市

魚津は、地形的にも大規模な工場誘致を行うことができません。そこで、将来性のある産業としてデジタル産業を見据え、ゲームを中心としたまちづくりを行っています。このまちづくりの手法は、クリエイティブエコノミー（ゲーム・音楽・動画などの、実体を持たない「作品」によって作られる経済活動）の考え方をもとにしています。

その中で、廃校をオフィスとして活用するなどの資源の再活用によって、ワーケーションや移住定住に結びつく取り組みがなされていました。

2つのアプローチ 福祉施設

高い満足度を獲得しながらそれぞれアプローチの方法が異なる、2つの福祉施設の視察を行いました。

一方の施設では、複数の最先端技術を導入して介護職員の負担軽減を図っており、職員の方が「ここで働いたら他では働けない」と話されていたことが印象的でした。それに対してもう一方の施設では、コミュニケーションを重視して人の温かさが感じられました。その姿勢を学ぶために全国から毎日研修の方が訪れており、「オムツは必ず取れる」という言葉と確かな実績には非常に感心させられました。

これらの事例を参考に、あわら市を住民にとってより住みやすいまちにしていくために、何を選択し、どう行動するのかを考えたいと思います。

活動報告

Activity Reports



魚津市視察



海岸清掃



あわら市
教育委員会表彰



あわら市 新名産



防災訓練



福祉施設視察



最終処分場視察



総務省訪問



議員研修



商工フェスタ



ふく割サポートセンター

みなさんのご意見をお聞かせください。



メール・FAXは24時間受付
mail : atsushi@a-aoyagi.com
FAX : 0776-73-5539
TEL : 0776-73-0313

編集後記

今年は多くの場所に足を運び、沢山の
ことを見て学んできました。ネットで調べ
れば多くの疑問が解決する世の中ではあ
りますが、やはり、現場でしか感じるこ
とができない感覚や人の想いがあります。
得られるものが非常に多いので、今後も
足を動かして現場へ赴き、自らの目と体
で物事に触れていきたいと思ひます。



頑張ります!!